

2017第3回定例会代表質問

1.ICTについて

最初の質問は、ICTについてです。

まず、各種手続きの電子化の状況についてお伺いします。

電子申請を推進することで、パソコン、スマートフォンなどの端末があれば、時間や場所にとらわれず、書類の準備なども不要でリアルタイムに手続きが可能になります。

キーボードなどのタイピングに慣れた方であれば、書類を手書きして作成するよりも速い場合がありますし、書き損じのような手書き特有のミスによる時間のロスも減らすことができます。

バリアフリーの観点からもICTの活用は有効です。例えば、外出が難しい方も手続きのために移動する必要はありません。手書きが困難な方もいらっしゃると思いますが、音声や視線など多様な入力手段を用いることも可能となります。

新宿区では、東京共同電子申請・届出サービスを活用した取り組み、そして新宿区のホームページからの問い合わせやパブリックコメントなどにおいて、ICTが活用されてきました。

今年7月よりマイナポータル上で、子育て関連サービスの電子申請がスタートし、平成30年12月にはマイナンバーカードを活用した住民票等のコンビニ交付が行われる予定です。

事務効率化の観点からも、手書きの情報を処理するよりも、最初からコンピュータ上のデータベースとして管理する方が望ましいと考えています。

一方で電子化を進めるためには、セキュリティ対策も重要です。既存の区のシステムの改修が必要となり、開発費用が発生する場合があります。

ただ、既存の仕組みを活用しながらより利便性を高めていく必要もあります。

現在、新宿区のホームページでは各種手続きの申請書が公開されており、ファイルをダウンロードして印刷し、そこに手書きすることで書類作成を行うことができます。

せっかくファイルがダウンロードできても、PDF形式である場合は、専用ソフトやWebサービスを利用しない限りファイルに直接記入することはできず、手書きする必要があります。

Word形式やExcel形式ファイルがアップロードされている場合もありますが、最初から編集することを想定し、申請書等を作成するべきだと思います。

また、根本的な電子化ではありませんが、確定申告のようにフォームに値を入力するだけで書類を生成できる仕組みも、暫定的措置としては有効です。

電子申請が普及しない要因として、各種書類の提出時に印鑑が必要とされていることも影響していると考えています。

しかし、印鑑は例えば3Dプリンタによって簡単に複製することもできます。今後、信用を担保する役割を担えなくなってくる可能性がありますし、昨今話題のブロックチェーンなど電子的に信用が担保される時代になってきました。

朱肉をつけて押印する以外にも、民間で利用されているPDF編集ソフトやWebサービスの中には、書類を発行する際に印鑑の画像データを印刷することがあります。

また、単に申請書に必要な情報を伝達するだけならば、既存の問い合わせフォームに申請書のタイトルや内容を入力することで、十分事足りるとも考えられます。

ここで、4点お伺いいたします。

- 1.新宿区の電子申請に関して、現在の進捗と今後予定している取り組みがあれば教えてください。
- 2.また、電子申請によらず紙で得た情報はどのようにデータ化して業務に活用しているかお答えください。
- 3.現在PDFで公開されている申請書等について、提出時に手書きである必要はないと考えています。WordやExcelなどで公開することが望ましいと考えますがいかがでしょうか。
- 4.また、既存フォームを活用することで、電子化が可能だと考えますがいかがでしょうか。

区長のお考えをお聞かせください。

次に、学校教育におけるICTの活用についてお伺いします。

人工知能の発展・普及により、2045年にはいわゆるシンギュラリティがやってくると言われ、今後は多くの仕事がICTによって代替される時代に突入します。子どもたちが時代の変化に適応し社会で活躍できるよう、生きる力を育むことが求められます。

ICTに関する教育の重要性は増し、新宿区教育委員会ではWindowsタブレットSurface Pro4を導入するなど、ICT機器の刷新が行なわれてきました。

そして2020年には、プログラミング教育が小学校から必修化されることとなります。

小学校ではブラウザから操作可能なViscuitやScratchなど、コードを記述する必要がないビジュアルプログラミングと呼ばれる言語が用いられることがあります。オブジェクトをドラッグ&ドロップ等で組み立てることで、コンピュータを操作し、論理的思考を学ぶことができるため、有効だと考えています。

一方で、例えば新宿区のシステムにはCOBOLという言語が利用されていますが、社会で実際に使われているプログラミングは、ビジュアルプログラミングではなくコードで記述されています。子どもたちにも社会の実態を踏まえ、コードを記述する経験が必要ではないかと考えています。

先月、鯖江市での小学生を対象としたプログラミング教育の現場を視察させていただきました。小学生たちはおよそ半日でBasicという言語を使いこなし、ゲームプログラミングからロボットづくりまで学習しました。その際にも使用されたIchigoJamという子ども用パソコンは、たったの1500円で販売されています。勉強を終えた子どもたちには子ども用コンピュータがプレゼントされ、自宅でもプログラミングができるようになっています。

プログラミング教育と言っても、特定の科目が増えるわけではないため、学校や教員の裁量によって授業の内容は変わっていくことになるでしょう。

既存の授業に取り入れられることとなりますが、実社会でも従来の業務にICTを活用してきた経緯を踏まえると、実践的な学びの場になることが期待できます。

私自身も鯖江市の全小中学校の教員を対象としたプログラミング研修を受講してきました。

Basicという言葉でゲームをつくることがゴールに設定されていましたが、周囲の様子をみていると、プログラミングが初めての教員でも、一定のスキルを身につけることができているように思えます。まずは研修でコードを書いてみることで、苦手意識を克服することが必要ではないでしょうか。また、鯖江市では情報共有のオンラインコミュニティも準備をしているようでしたが、研修などと並行して情報交流の機会を増やしていくことも求められています。

民間企業もICTを推進するなど変化をしている中で、教育現場も変わっていかねばなりません。プログラミングのみならず、3Dプリンタ、IoT、AIなどのテクノロジーを理解していることは、生きる力を身につける上で最低限必要なことになってくると考えています。

そこで、4点質問があります。

- 1.プログラミング教育において、具体的に検討されている言語にはどのようなものがありますか。Windowsのブラウザベース以外にも、言語のインストールや新たな端末を導入するなどの選択肢を検討すべきだと思いますがいかがでしょうか。
- 2.子どもたちの成長の可能性を踏まえて、コードの記述やロボットを作るなど実践的な取り組みも必要だと考えていますがいかがでしょうか。
- 3.教員の理解度や指導力によって差が生まれると考えていますが、研修や情報共有の仕組みはどのようにお考えでしょうか。
- 4.3Dプリンタ、AI、IoTなど最新のテクノロジーについて学ぶ機会も同じように必要だと考えています。子どもや教員の理解を深める取り組みが必要だと考えていますがいかがでしょうか。

教育委員会のお考えをお聞かせください。

2. 公民連携について

次の質問は公民連携についてです。

これまで何度も公民連携について質問をさせていただき、他自治体の事例も調査を行なってきました。

歌舞伎町で行なわれている民間主導のまちづくりなど、公共空間の活用に積極的で、新宿区ではすでに非常にレベルの高い取り組みが行われています。

他自治体にも様々な動きがありました。

渋谷区では、シェアリングエコノミー協会と連携協定を締結するなど、新たな価値を創造するスタートアップとの提携も積極的行なっています。

スタートアップとは、創業初期の小さな会社という意味ではありません。テクノロジー等を活用し、これまでにない新しいビジネスを展開しながら急成長し、イノベーションを巻き起こす企業のことです。最近では、オープンイノベーションとも呼ばれる手法で、大企業とスタートアップが提携を行うことも増えてきました。渋谷区のように行政とスタートアップとの公民連携が行われることで、これまでにないイノベーションを実現することができると確信しています。しんじゅく防災フェスタ2017では、今年渋谷区と協定を締結した日本最大のご近所SNS「マチマチ」が出展していました。

新宿区では、スタートアップがどのようなものか庁内に浸透していないようにも感じています。区とスタートアップが提携できる仕組みづくりが必要で、そのためには、区長、企画政策課、産業振興課など部署に関わらず研究を進め情報収集やコミュニケーションが必要です。

また豊島区は、コカ・コーライーストジャパンと包括連携協定を結び、公園トイレの全面改修を行うことを発表しました。

自動販売機を設置することを条件に、改修の支援が行われます。

加えてオープントイレプロジェクトにより、コンビニとの協力を行ない街中のトイレの確保を行なっています。

ハード・ソフトに関わらず公民連携を進めていくためには、新宿区としても受け入れる姿勢を見せることが重要だと考えます。

平成28年第二回定例会で公民連携を担当する部署に関する代表質問をさせていただいた際には、「事業者が区と連携し、事業を行いたいと考える場合は、まず総合政策部に連絡していただき、提案事業の内容により各事業所管部を紹介させていただきます。」とご答弁をいただきました。

事実上は総合政策部の企画政策課が窓口ということで理解しています。

豊島区では6月より窓口が開設されました。確認したところ、常時相談スペースのようなものがあるわけではなく、問い合わせがたらい回しにならないよう、わかりやすく窓口を設置されたそうです。

つまり、ホームページに窓口を開設したことを明記し広報すればすぐに実現が可能で、豊島区も平成28年にいただいた答弁と事実上同じ状況であったと言えます。

他会派からも窓口設置の要望はありましたが、豊島区の事例を踏まえると、コストが発生しないことも明らかのため、今すぐにでも実施するべきだと考えます。

そこで、2点お伺いいたします。

- 1.他区でも活発になってきたスタートアップとの連携は多様化する区政課題への対応に効果的だと考えますが、区としてスタートアップも公民連携の相手方として考えることは可能ですか、伺います。
- 2.公民連携の窓口は予算や人員も不要で開設できると考えていますがいかがでしょうか。できない場合はその理由もご説明ください。

区長のお考えをお聞かせください。

3.公費による飲食について

次の質問は、公費による飲食についてです。

福祉や危機管理など、優先度の高い事業にお金を投じつつも現役世代と将来世代に負担をかけないためには、1円でも多く歳出を削減しなければなりません。

昨今、公人の飲食については厳しい目が向けられてきました。

新宿区議会では政務活動費での飲食は認められていませんが、税金が含まれた政治資金による飲食、あるいは政務活動費による飲食などは、メディアでも報じられてきました。

もちろん、決まったルールの範囲であれば税金での飲食自体に問題はありません。

しかし民間では、自分の財布であっても企業の経費であっても、自分たちで稼いだお金で飲食をしています。税金としてお預かりしているお金で飲食が行われることに、納得がいかない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

新宿区では、現在も飲食を伴う事業が行われています。例えば、代表的な事業として成人式があります。新宿区では京王プラザホテルで盛大にイベントが行われますが、成人される方々にとっては一生に一度の機会です。毎年500万円程度の予算が計上されていますが、400万円以上は食糧費です。若い世代のために費用をご負担いただくことを新宿区全体でご了承いただいていた事業の一つではないかと思えます。

また、年始にある賀詞交換会でも飲食が行われています。イベントの参加費は1000円ですが、その上で毎年300万円以上もの公費が投じられています。

自己負担をお願いしようということで、名簿で500円、食糧費で500円として参加費を徴収していますが、それでも食糧費を賄うことはできず、公費が投じられています。

賀詞交換会には新宿区に貢献されている方が参加されていますが、あくまで区の基準で決まっており、本来であればすべての区民が貢献していると考えべきです。

他にも細かいところでは、出張の際に職員や議員は旅費支給規程により食卓料が認められています。区長や副区長、議員等は高めに設定されています。

伊那市議会との交流会など、議会でも公費で行われるイベントで飲食を伴う場面もあります。今年は予算75万円で京王プラザホテルにて行われる予定ですが、伊那市議会や職員の分の食糧費を新宿区が負担しています。交流自体は素晴らしいことですが、新宿区民の税金を投じることに違和感を感じています。単なる飲み会の場にならないよう、改善が必要だと考えています。

もちろん、飲食を伴う会合でコミュニケーションが円滑になり、区政の話に繋がる可能性もあります。しかし、アウトプットが不明確で、効果測定は難しいと考えています。民間では接待など、飲食を伴う場を大切にする場合もありますが、税金で行う以上は納税者への責任が伴います。イベントに参加していない納税者にとって、税金で飲食を行うことに何のメリットがあるのでしょうか。

飲食が行われている事業を見直し、自己負担を推進し、アウトプットが明確な具体的な政策に支出をまわすことが適切だと考えます。

また、先ほど例に挙げたようなイベントでは、残念ながら食事をあまりされない方も多く、残ってしまうことも珍しくありません。

人数の予測が難しいことも理解できますが、公費だからと言って食べるつもりがない人の分まで多めに注文すると、食品ロスにも繋がってしまいます。

過去の状況から見直しを行っていると思いますが、どのイベントであっても公費で満腹になるほどの食事を用意する必要は感じません。

3点質問があります。

- 1.区長の食卓料は3,300円と旅費支給規程により区職員の2,200円よりも高い金額が設定されています。食事をするだけであれば、副区長や議員等も含めて特別職の場合には水準を落としても問題ないと考えていますし、自己負担で対応するべきだと考えていますがいかがでしょうか。
- 2.公費で飲食を行う場合、その場に参加できない区民にメリットはありません。具体的な成果も見えにくいため、公費での飲食は優先度が低いと考えていますがいかがでしょうか。
- 3.食事が余ってしまうことについてはどのようにお考えでしょうか。開催時間を工夫すること、あるいは最初から食事をする場ではないことを伝えれば、そもそも準備も不要になると考えていますが、いかがでしょうか。

区長のお考えをお聞かせください。

4.若者の政治参加について

次の質問は、若者の政治参加についてです。

今年7月に若者会議が開催されました。

私もこれまで提言を続けてきましたが、大変素晴らしい取り組みでした。若者の議論で特徴的だと感じた点は、区で行われている年齢層の高い会議とは異なり、ICT、スタートアップ、ベンチャー、民間との連携などの話が充実していたことでした。

もちろん議会でこうした単語が出ることもありますが、若者からのご意見は、どこかから引用してきたものではなく、実体験に基づいたものであり、区政での議論と異なる空気を感じました。

素晴らしいご意見がたくさん飛び交っていましたが、それらがどのように集約され反映されるかも含めて、チェックを行ってまいります。

実際に参加者からのご意見にもありましたが、今回の若者会議は単発のイベントで終わりにするのはもったいないと考えています。他自治体でも、一定の期間を設けて実施することで、若者がプレイヤーとなり政策実現につなげています。

議会でも提言をしてきたように、約500万円かかっている若者のつどいと比較しても、若者会議はかなり安価にできる取り組みです。

今回であれば、謝礼4000円が60人分で24万円となり、比較的経費は少ない方ですし、他にも計算が難しいところでは職員の人件費程度とのことでした。

職員が大勢必要な訳ではありませんし、謝礼を見直し、引き下げや廃止することも有効だと思います。

区の支援は会議室を貸与する程度にとどめ、開催頻度を増やすことでより多くの若い世代に出席していただく機会をつくる必要があります。

町会や若者のつどいなどの行事を、そもそも若者が認知していない実態も明らかとなりました。

若者が既存のコミュニティや行事に参加する以外にも、今回のように世代が近い人同士が集まり、新しいことに取り組むことの先に、世代を超えた緩やかな連携が必要ではないかと思います。

また、私はたまたま区民の方と交流することができましたが、会議後は特に懇親会もなく解散となりました。

若者会議終了後は、簡易的な懇親会が開催されることが望ましいと感じます。

私が参加した新城市若者議会、あるいは名古屋わかもの会議でも、懇親会は大変盛り上がっていました。

せっかく議論をした仲間ですから、同じ班だけでなく、発表したことについて意見交換もできるはずですし、そこから新たなまちづくりのプロジェクトが生まれる可能性もあるでしょう。

夕方までに懇親会を行うことで、食事の用意は不要となります。その場で出会いをつなげることが大切です。交流を深める機会を設けることで、例えば有志で懇親会が行われ、議論が発展するきっかけにもなるのではないかと思います。

また、対象年齢の引き下げや、区外在住者も含めた学校や企業との連携なども必要です。

年に1度しかイベントが開催されなければ、単なる意見交換会で終わってしまうので、今後も改善が必要だと考えます。

そこで、5点質問があります。

- 1.若者会議を開催されて、その後区政に影響はありましたか。具体的に取り組まれた事例などあればお答えください。
- 2.対象年齢については、今の年齢が適切だとお考えでしょうか。当日も議論が行われていましたが、高校生や現役世代、区外在住者の参加についてはどのようにお考えでしょうか。
- 3.コストをかけずに懇親会を開催することが必要だと考えますがいかがでしょうか。
- 4.若者会議が年に1度の開催では、単なる意見交換会となってしまう成果が見込めないと考えています。継続すること、あるいは形式にとらわれず、若者がまちづくりに参加する機会が必要だと思いますがいかがでしょうか。若者会議のコストを圧縮して開催頻度を増やすことも必要だと考えていますが、いかがでしょうか。
- 5.若者のつどいに関して、若者会議との連携はどのように行われていますか。今年のイベントで何が行われるのかについてもお答えください。

区長のお考えをお聞かせください。